

### 第33回研修会報告書

KSCD 事務局

京滋コンクリート診断士会では、第33回研修会を以下のとおり開催いたしました。

当日は酷暑の中、大勢の方にご出席をいただき、盛況裏に終了できましたことを感謝申し上げます。

1. 日時 令和6年7月26日（金） 13:15~16:45
2. 場所 滋賀県危機管理センター 1F 大会議室
3. 参加者数 33名
4. プログラム
  - ① 「デジタルツインを用いた PC 橋の構造性能評価と維持管理への活用」  
神戸大学 大学院工学研究科 市民工学専攻 准教授 三木朋広 先生
  - ② 「建築物の耐久性評価」  
近畿大学 建築学部 建築学科 教授 岸本一蔵 先生
  - ③ 「コンクリート構造物の劣化・損傷と性能評価」  
関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 教授 上田尚史 先生

【講評】 京都大学 大学院 経営管理研究部 経営管理講座 教授 山本貴士 先生



■高井会長の挨拶



■会場の様子



■三木先生の講演



■上田先生の講演

令和6年度、国土交通省の「橋梁定期点検要領」が改定になり、健全性の区分の決定にあたり、道路橋を取り巻く状況を勘案し次回点検時までに遭遇する状況を想定し、望ましい措置を提案することとなっています。

三木先生、上田先生のご研究は、それらを踏まえた診断のガイドラインになるのではないかと大変興味深く拝聴させて頂きました。



■岸本先生の講演



■山本先生の講評

また、岸本先生のご講演では、建築物の寿命が中性化で評価されることに疑問を持たれ、材料劣化（特に鉄筋腐食）が耐震性能に及ぼす影響を評価するべきとのご提案でした。

不静定次数の高い立体ラーメン構造において、部分的な劣化が全体に及ぼす影響を考慮するのは大変なことですが、今後の研究に期待される方は大変多いものと思われます。

ご都合により、各先生の講演資料を基に、講演前のご講評となりましたが、山本先生の律義さに頭が下がります。今後ともよろしくお願ひします。